

も お

M・O・H 通信

5号
2005
February



「M・O・H」のマーク = 牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします

人は環境をつくり
環境が人をつくる
キーワードは
MOH (もおっ)

M → **も** 循環
→ **も** ったいない
他の生命を奪って得たものを使わせて頂く

O → **お** 共生
→ **お** かげさま
人は一人では生きられない、環境によって生かされている

H → **ほ** 抑制
→ **ほ** どほどに
欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために

目次

<特集>原点を見直そう

- 「300年住宅を目指して」
横山 章・紀美子 1,2
- 「ブラジルの子どもたちが感じる日本の今」
辻村 琴美・滋賀ラテン学園 3~6
- 「家訓づくりから始めよう(2)」
野洲市生活学校 7,8
- 「私の幸福感を変えた出来事と農」
岩田 康子 9,10
- 本田先生の倫理学講座
本田 裕志 11,12
- むだいずむ(4コマ漫画)
しみず やすお 12
- 三河のエジソン
今関 信子 13,14
- ちょっと一服 MOHの窓
写真・文=辻村 耕司 14
- 「小学」を学ぼう
井上 昌幸 15
- 本の紹介 16
- 循環型社会入門②
森 建司 17,18
- 講演日記 18

投稿コーナー

会員の皆様の心に
残った一言をご紹介します。
(敬称は略
します)

先義後利

大津市 伊藤誠 48歳

縁尋機妙 多達勝因

素晴らしい人との出会いを大切に

竜王町 山岡 完右 64歳

花実相応

生きる手がかりです

米原町 手原 繁吉 57歳

二億年後の地球には人間はいませんが、様々な生物が多様な進

化を遂げるそうです。自然破壊をする人間は死に絶え、別の種はたくましく進化する。
結局、人間は自分で自分の首を絞めているんですね。
— [the FUTURE is WILD] を読んで—
京都市 家宇治賢 29歳



「詩とは人々の言うように感情ではない。詩とは経験である。一行の詩を書くためには、あまたの人々、あまたの事物を見ねばならぬ。」

ドイツの詩人リルケの『マ
ルテの手記』中の言葉
彦根市 金子 孝吉 49歳

「同じするなら甲斐のある苦勞をしまさい」

昔、伯母(故人)に言われた言葉です。
日野町 川原 慎一 58歳

青春とは心の若さである
奈良市 斎藤 俊信

自然は私のお手本です
高月町 堀内 良一 56歳

原点を見直そう〈住〉 先祖の家を現在に活かす 300年住宅を目指して

横山 章(70才)・紀美子(58才)

故郷の家に住む人が
いなくなった

滋賀県北部に位置する高月町唐川は国の重文、聖及び千手観音を守る観音の里で名高く、山や川や田園が残る土地だ。築100年を数える家屋も見られ、養蚕で栄えた名残がある。人々は主に近隣で就業し、農業を副業としながら家を守っている。

横山紀美子(旧姓今井)さんはここで生まれ育ち、17才で上京した。東京学芸大学に進学し、文化放送で塾の講師として小・中学生に算数、国語、英語を教えている。ご主人と出会った結婚。ご主人は生粋の江戸っ子で三代目、東京工大出身で防衛庁に勤務していた(現在は定年退職し嘱託勤務)。二人の誕生日は偶然にも1月3日、一回り違いのおしどり夫婦だ。結婚記念日は1月13日。御夫婦は二人の息子に恵まれた。二人と



南西より

も誕生日は11月13日。1と3に縁のある家族だ。

本題に戻ろう。紀美子さんが故郷を出て40年あまりが過ぎた。両親は他界し兄弟も独立していた。家を守る人がいないという現実を目の当たりにした。

江戸時代から築150年になろうかという4代目を数える今井家は、樗をふんだんに使った茅葺二階建ての農家。お蚕さんの柵をつるすわっかや、露地門、波打つガラス、へっついなどが残る。しかし、住む人もなく、手入れ不足で荒れていた。

私が守ろう

ある日、紀美子さんが家を見ながら思った。

「玄関の柱は抱きつきたくなるほど懐かしい。私が子供の頃は、清潔の日が年一回あり、地域で二斉に大掃除をしていました。天井の煤を藪箆で払って、畳を上げて床に風を通し大掃除します。私もアネサンかぶりをして、手伝っていました。また、五右衛門風呂に入った事も思い出します。お蚕さんの柵があった部屋は、家族が



通し柱の高さ調整バックン

一つの火箱で暖をとりながら身を寄せ合って寝た部屋です。愛着があります。家族の思い出が詰まった家を朽ちさせてはならないと思えました」

小さかった息子達は夏休みはいつでも唐川で過ごした。カブトムシを捕まえたり、川遊びで東京にはない自然を満喫する。昼寝する孫をうちわで扇ぐおばあさんの姿が目につく。

同窓会で帰郷した折、古い家屋を復元しながら住みやすくリフォームする工務店があると耳にした。長浜市にある田邊工業株式会社だ。

手入れされたい家だ

現地に駆けつけた田邊社長は「



いろいろな木の良材でつくられた手造り茶筆筒

目ぼれしました。波打つガラスが残り、柱に使われている木がいい木でした。樺や栗いろんな木が混在し、穴があけてある箇所もあり、まっさらではない。どこかに使われていた木を再利用していることも伺えます。木の歴史を感じます。柱の土台を根継ぎしているとき、祖先の残した足跡を発見しました。当時、柱の修繕として通し柱にはさんであつた樺の木片に「明治25年12月12日」と墨書きしてありました。これでこの家は115年前に修繕されていた事が証明されます。建築後150年は経過している家なのです」

改築は昔の面影を残しつつ、現代の暮らしにあった電化製品を設置しバリアフリーにした。天井をはずすと格子状に組まれた壁が現れた。高さ3.7メートルの空間が美しい。壁は岐阜の左官職人が大津壁で塗り重ねていた。三代前のおじいさんは指物師で、つくった筆筒は扉が樺、天板などは檜が使われており木目が鮮やかだ。仏間を改造し南向きに縁側を作った。東の前栽を眺める廊下には波打つガラス（昭和初期まで使われていたガラ

スが使われた引き戸が健在だ。扉や筆筒、柱など家に残る家財類はできるだけリフォームに活かした。

伝承する心に惚れ、工夫する職人技が映える

「思い出に残る品物を残し生活しやすい家を目指しました。リフォームの設計図は一応作りましたが、現場を見てみないと何が出るかわからないので、大工と職人の腕に任せています。工務店は施主様と大工・職人の橋渡し役です。施主様の想いがどこまで実現できるか…。職人は工夫する面白さを味わっています」と田邊社長の復元しつつリフォームするとい

う思いは熱い。

ご主人の横山章さんは

「規格品の家を建てるのは簡単です。しかし、古い家を伝承していくのは難しいことです。古い家の良い所を生かしリフォームしてくれる工務店は多くありません。今がチャンスと踏み切りました。私たちは東京で生活していますが、故郷で快適に過ごすことを楽しみにしています。そして、親子人々との集い、語らいの場として利用する夢も持っています」

この家は「愛清荘」と名付けられました。今井 愛&清治郎で愛清荘。紀美子さんの両親の名だ。

「家に人が集ってくださる事は、ご先祖様も喜んでくれると思います。」

横山 章
紀美子

先祖が大切にされた心を継承することができたかなと思っています」と感無量の紀美子さん。
三百年住宅を目指して住む施主と工務店と匠・職人が、新たな歴史を築こうとしている。

- 施主 横山章さん 紀美子さん
- 横山邸 滋賀県高月町唐川
- 田邊工業株式会社 滋賀県長浜市東上坂町 112-1
- 写真 辻村写真事務所
- 取材 編集



梁丸太、煤竹飾り天井や壁の力貫。左から横山章さん、田邊社長、紀美子さん

原点を見直そう〈廃〉 ブラジルの子どもたちが感じる日本の今―1

講師／循環型社会システム研究所 辻村 琴美

授業内容／私たちが環境問題に取り組む訳

■平成16年11月30日(火)午前10時～

■滋賀ラテン学園



日本にはブラジルから多くの人が家族を伴い就労し、暮らしています。ここ、滋賀ラテン学園は子どもたちに、ブラジル式の教育をしている学園です。そこには故郷に帰っても学力で苦労しないような配慮が見られます。ブラジルの子どもたちから、廃棄物について学びたいという要請を受けました。私のつたない話を、滋賀ラテン学園の学生70名が熱心に聴いてくれました。通訳をノエミ・フルカワ・ルーカス先生が勤めてくれました。

経済の発展が 日本の目標だった

日本は大陸からわたってきた農耕文化を取り入れ、稲作農業を中心とした自給自足の暮らしをしていました。これは、縄文・弥生時代から続く歴史でした。

明治・大正・昭和と近代化が進み、諸外国の文化が日本に入り、急速に西欧の暮らしぶりを日本人は取り入れられました。

ところが、第二次世界大戦では敗戦国になりました。それから貧しい暮らしから這い出すために、アメリカの経済を見習おうと全国を挙げて努力したのです。

日本列島改造論、所得倍増計画：と政府と私たちは経済大国日本を目指して血眼になって突き進みました。そのために地下資源(石炭、石油、ウラン)



を買い、物質的に豊かな生活を享受しています。メーカーは大量に生産し(資源を使い)、私たちは安いからといって大量に購入し、メーカーも私たちが大量のゴミを排出しています。いまや、私たちは地球の資源を使った大量のゴミと暮らしているようなものです。

ゴミを原料として 再生製品を生み出す

そこで、政府とメーカーは考えました。製品の多くは石油を原料として作られます(ポリエステル繊維、ペットボトル、ビニール袋、食品トレイ、プラスチック製品、カーペットなど)、パルプをつかった紙製品、ガラス製品、金属製品(アルミ缶、スチール缶)など再生できる商品は再生しよう……

そうです。家庭や企業から出るゴミを原料にして、もう一度製品を作るのです。そのために、ゴミの分別を私たちに義務付けました。そして、私たちは捨



てるものを洗って分けて、きめられた日にゴミ捨て場を持っていつているのです。
紙からトイレレットペーパー、雑誌は新聞紙、ミルクカートンからティッシュ。ガラスは溶かしてガラス、金属も溶かして金属、プラスチック製品は粒状の原料に戻して再生製品(トレイやライター、ビデオテープのカバー、文具など)として市場に出ています。

私たちは本当に幸福なのか

しかし、これは製品を原料として利用できる事はいくつですが、原料に戻して再生するために、多くのエネルギーと人の手間と運賃とコストがかかります。このことが本場に地球資源を守っていることになるのでしょうか。

確かにゴミは減ります。しかし、皆さん、私たちが地球資源を守り、種を絶やさず私たちが生き続けるためには、もっと努力しないといけない事があります。これ以上物を増やさない事です。お金を手に入れようと、無駄な製品を作ることで、川や山や自然を犠牲にしない事です。正しく生き、つましく暮らし、人を愛し、子を作り、家庭を育み、廻りの人と仲良く暮らす…何でもないことが大切なのです。

日本は金持ちになろうと必死なあまり、このことを忘れてきているのです。今、みんながおかしいぞと気づきはじめました。そして、何が間違っていたのか考え直そうと言う人も増えてきました。

文化を守り、子孫を育む 万国共通の課題

私が、皆さんにお願いしたいのは、遠い異国に来て、暮らしの違いに戸惑ったり、なじんだり、なじまなかったり、淋しかったり、楽しかったり…すると思いませんか。お父さんやお母さんは一所懸命働いておられます。私は、家族のために働く姿は尊いと感じます。皆さんは素晴らしいご両親のもと、せっかく来た異国の地で、学んでいただきたいのです。日



本のいいところも悪いところも、ラテン民族はとても豊かな文化を持ち、家族や共同体を大切にする人たちだと聞いています。

皆さんはラテンの文化を引き継ぎ、豊かにさせる大事な役目を持っています。今しか出来ない勉強をしてください。そしてブラジルを良い国にしてください。そのためには、あなたたち一人一人の自覚と、前向きな考え方や謙虚な学ぶ気持ちが必要です。そのためのお手伝いは、先生方はじめ皆さんが全力を挙げてしてくださいましょう。

私は、日本の世直しが出来るよう、皆さんに気づいていただけるよう、通信を発行しています。そして、次に来る循環型社会(人も資源も地球も生き物も循環できる暮らし方)について研究しています。私に出来ることは少ししかありません。しかし、同じ思いを持つ人が集まったとき、何かが動くと思っています。

次にお話できるときは、日本で頑張

る人々のお話でもいたしましょうか。なかなか日本は捨てたものではありません。面白い取り組みをする人がたくさんいます。私は、このような人を大切に、出会いを創っていくことが今の自分の役割だと信じています。

そして、今日のことをきっかけにし、日本とブラジルの未来に橋渡しできれば、とても幸せです。だから、皆さんを大切にしたい。学びたい事があれば、きっかけを作りましょう。先生にお話してください。

皆さんの輝かしい未来に期待しています。ご静聴ありがとうございました。

● 滋賀ラテン学園Ⅱ所在地／滋賀県蒲生郡菟王町大沢山の上5269 ● 生徒数／120名(2才〜17才) ● 教育方針／ブラジルでも役立つ教育 ● 近郊主要都市在住の子どもたち

● 辻村 琴美 1995年 大阪生まれ。金蘭短期大学出身、飲食料業界紙にて記者と編集を経験。夫、長男、長女、義父、義母の6人家族。新江州株式会社勤務。

原点を見直そう〈廃〉 ブラジルの子どもたちが感じる 日本の今-2



さあ、ブラジルの子どもたちの感想は、どうでしょうか？とても熱心に聞いていてくれました。感謝です。そして、彼らから授業レポートが届きました。ラテン学園の生徒の率直な感想をご紹介します。

「未来にむかって役立てたい」

私は、小さいころから日本に住んでいます。日本は模範的な国だと思います。一番感心するのは、日本の文化と人々の教育がとつても素晴らしいことだと思います。

始めは、日本になれるのがとつても難しかったけど、すぐになれるようになって、私の家族にいい機会をくれました。

私は日本の学校に七年ぐらいかよいました。そのあいだ、ぜんぜん差別をうけませんでした。友達はみんな私に仲良くしてくれたり、わからないことがあったときは教えてくれました。七年間にはすごい、いいことも覚えました。

現在は滋賀ラテン学園にかよっています。なぜブラジルの学校をえらんだかと言うと、将来にはブラジルへかえって大学へ行きたいと考えているからです。

私の国へもどつても、ここであつた思い出や、おしえてもらったことを、みらいへむかってやくくにたてたいです。

(松本ステファニー High School 10)

「きれいな地球を守るため」

ゴミのかけつけの、1つのほうほうはリサイクルすることです。



すべてのげんりょうは、しぜんからとります。それをつかったら、ゴミになります。リサイクルをしたら、もういちどつかうことができます。

そうするなら、しぜんやしげんをまもることが出来ます。しげんをまもることは、わたしたちにげんのせいにかつても、まもられることになります。

すなわち、それらは、おたがいにふかくかかわつていからです。

ゆうがた、たいようがやまにせずむときは、とつてもうつくしいです。うつくしいしげん。たとえば、うみやかわ、たきなどをみるとき、とつてもかんどうします。

もし、しげんを、はかいしたら、いつかきつと、こういうとおもいます。

「わたしたちは、なんて、おろかなことを、してしまったのだろう」と。

でもまだ、このちきゅうは、すごくきれいです。

(アレクシス High School)



「リサイクルについて」

さいきん、日本のみなさんがリサイクルのことについて、すこかんしんをもっていると思います。ごみはちゃんと捨てるように、いつも、どこでもラベルがはつています。でも、日本語の読めない人には分かりません。ですから、ポルトガル語で書いてあれば、よく分かると思います。なぜなら、日本で多くの外国人は、ブラジル人だと思います。

ブラジルでも、リサイクルをする会社があります。でも、そのリサイクルの物は、ぶつ物の品物よりやすくなっています。なぜなら、ブラジルでは、リサイクルの物をたくさんつくるから、やすくなります。でも日本ではリサイクルの物のほうが高いと言う話をきいておどろきました。

日本人は環境のことを考えています。日本とちがつてブラジルはあまりお金のない国だから、みんなはできるだけ安い物を買いたいと思つているから、リサ

イクルのこともはつきりとしております。でも、言葉の問題で日本で何をどういうふうにしなければならぬのが分かりません。

日本の人が、リサイクルのことを外国人の子供たちに教えにきてくださつたことが、すこくうれしくなりました。私はあの日から日本のリサイクルのことをもつとよく分かるようになりました。

ほんとうにありがとうございます。
(大石ケジヤ)

「日本でも私のじんせい」

日本にきたときから、私のじんせいは、すこくかわりました。はじめは、友だちがなくて、おねえさんと家の中ですごしました。あそぶときは、いつも、ねことあそびました。

しばらくして、日本にあるブラジルの学校へ入りました。でも、そこになれることができなりました。おないどしの

こともたちと、なかよくなれませんでした。ブラジルでわかれたお友だちやかぞく、とくに11さいまでいっしょにすんでいたおばさんがなつかしく、ゆうがたになると思ひだしてないました。いつも、はやくブラジルにかえりたいと思つていました。私のきもちを、りょうしんはわからなかつたと思います。

しばらくして、日本の学校へ入りました。その学校はとてもよかつたです。ブラジル人の友だちもそこにいて、日本語きょうしつでブラジル人とペルー人といっしょに、日本語をべんきょうしました。このことは、ながくつぎませんでした。おかあさんが、ほかのしごとにかわつて、いえもかわつて、私も学校をかわりました。

つぎの学校の人たち、私のことをうちゆうじんのようには思ひました。わたしをみて、小さなこえで友だちとひそひそ話しました。そのことでも、かなしくなりました。

小学校をそつぎようして、中学校に入つたら、もつとかなしくなりました。はじめもあつて、私をすきじゃない人もいました。さいしょの日、わるぶざけがありました。私のわる口をいう人がいて、ないてしまいました。中学校では、バレーボールをやつていました。うちにかえるときは、もうくらくらなつていました。ある日、自転車にのつたら、自転車はパンクしてしまいました。タイヤにピンがさつていました。そのことを、だれにもはなしませんでした。その日はうちまで、あるいてかえりました。

ある日、甲西にあるブラジルのお店にいったら、そこにブラジルの学校がありました。外で子どもたちが、たのしそうに

体育のじゆぎようをしていました。それを見るとき、私もおなじようになりたいたいと思ひました。そして、この学校へはいつかこの学校にかよつていきます。たくさんのおもだちができました。いまは、とつてもしあわせです。でも、いつかブラジルにかえりたいです。

(ライス チエミ 8年)

「ゴミをへらそう」

リサイクルは、とてもたいせつなことです。それをするには、かんきようをまもることです。そうするならば、つぎのせだいに、おなじかんきようをあたえることができます。

ちきゆうからとれるしげんは、かぎりがあります。しよくぶつや、どうぶつにも、せつめつしているものがあります。そのことは、わたしたちにけいこくをあたえているとおもいます。

リサイクルのたいせつさは、もつとみらいをよくするため、じぶんたちのゴミをへらすことです。

(ケリー High School)

「みんなで協力しよう」

リサイクルは、かんきようにとつてもたいせつなものです。5ふんごと、ゴミがふえています。

もしゴミのせんべつを、日本とおなじようにしたら、まずしい人たちのし



とがもつとくらくらになります。なぜならブラジルではまずしい人たちは、ゴミすてばでゴミをわけるしごとをしているからです。

リサイクルじぎようは、ますますせいちようしています。これからも、みんながきょうりよくしたら、もつともつとかんきようがよくなるとおもいます。

(エンライ・S・ヤマト High School)

編集部より原文を尊重した表現をしております。

原点を見直そう〈家〉
野洲市生活学校

家訓づくりから始めよう(2)

あなたの「生き方を決めた一言」が家庭を変え、社会を変える

講演／循環型社会システム研究所 代表 森 建司

■平成16年9月28日(火)

■野洲市中央公民館

■参加者／24名

野洲市の生活学校は五十代から七十代の女性が集まるグループ。有機栽培で大豆を栽培し、ふくよかな味わいの味噌を作っています。生活学校は生涯学習を目的とする全国に支部を持つ組織です。野洲生活学校も月に一度、勉強会を開催しています。

その活動の一環として”家訓づくりから始めよう”をタイトルとした講演とその実践が試みられました。講演者の「生活者の意識を変えること」で世の中は変わります。大事なものは、皆さんの心に残る言葉です。あなたの生き方をきめた一言です」との呼びかけに応じてくれました。会員の家訓を聴いてみましょう。

●思いやりの心を持つ(目配り、気配り)・感謝の気持ち(何に対しても)・腹を立てず気を長く(短気は損気、呼吸おく)・健康に気をつけよう(食生活を大切に)・日光東照宮へ参拝した時に出会った言葉「気は長く、勤めはかたく、色うすく、食細うして、心広かれ」
天海大僧正 御遺訓
：長嶺真佐子 65歳

●和・やすらぎのある明るい、温かい家庭・人に対する思いやりのある家庭・感謝の気持ちがある家庭
：白井康子 63歳

●感謝の気持ちをもとう・笑顔をやさず・体と頭を働かせよう・何でも小さなことから始めよう・無駄を省こう(物を大切に)・時間を大切に使う

おう・食べることを大切に考えよう。他人の喜ぶことを行いましょ。自分の生活も楽しもう。夫婦、仲良く老夫婦のこれから生きていくうえでいつも考えていること、娘夫婦にも伝えて行きたいと思う。
：落合 房子 70歳

●天知る 地知る 我知る 自灯明と感謝
母からいつも言われて育ちました。子供には口癖で言っています。考えてくれば良いです。
：前田典子 59歳

●私は、今日一日元気で暮らすこと、家の中はいつも明るくすること、お早うとかお休みの挨拶のことができること、無駄を無くして暮らすこと、いつも親からしまつり、始末をすと言われました。贅沢はきりのないこと。これからはもっと考えて暮らそうと思えます。昔からよく言われた事を思い出すと、なるほどと思いつたこととはたくさんあります。これからも勉強ですね。
：桂菊江 70歳

●私の家では家訓と言うほど決めている訳ではないのですが、子供が小さいころから朝起きて顔を見たらお早うとお休みだけは今も続いていると思います。おしゃべりは大事です、常に新しい話題を取り入れるように。

私が親から教わった言葉は、父から「損して得を取れ」、母から「安物買いの銭失い」。それを聞いたときはま



だ子供で何のことが分からなかったけど、今頃この年づくづく思い知らされている今日この頃です。M・O・Hは私なりに生活に入れていきます。これまでもやって来たと思います。古い人間でしょうね、当たり前のことと思つて生きてきました。
：黒田昭子

●愛 笑顔 健康 時間 いいことを話す

私は主人と二人で暮らして娘は長男の人と結婚をし、マンションで暮らしています。家は他人のあとを私達が先祖さんの弔いをして、家屋敷を守ってきました。仏さんにお参り、墓参りをしているときは、何時もおかけ様有り難うといっています。娘は私達のことにはわかっていてくれますが、息子は都会育ち、私達のことにはわかってくれ

ませんが、家に来たときは色々(この家の昔の人の話、私の聞いていること、又主人の苦労して建てた家、壁土も主人が出動するたびに足で土をこなして出勤したことを話しています。私は娘にこの家を売つてどこかへ行くのは許せない、行くのなら他人さんでもいいからこの家と先祖さんを守つてくれる人がいたら、その人に家にはいつてもらうよう言っています。
：私75歳 主人78歳

●私が病気で退院して自身の心に整理がついた頃から、健康を害した方と話をしたり、見たりしたときに人の痛みが心から分かるようになり、今までよりも気持ちがやわらかくなつたかな...と思えます。このことだけがプラスになりました。
：小林智世子 72歳



●「努力」
いくつになっても努力する心を持つていた。
：湯沢 美智子 72歳

●「親の背を見て子は育つ」

私の両親は、子供に言葉として教えてくれませんでした。サラリーマン家庭で幸せでしたが、いつも両親が仲良くしているのを見てきました。現在は、親の背を見てると子供も同じように悪いことも覚えていくように思います。子供よりまず親の生き方を問われているように思います。親の生き方を変えるのは難しいですが、私も環境や、無駄をなくすことなど、考えて生きていくつもりですが…。
子供がいないのが残念です。
：谷 エミ子 57歳

●リサイクルやリユースで物を大切に

主人は、電化製品をはじめ色々なものを修理して使えるように工夫しています。私も、衣類で着なくなったものをパッチワークで座布団カバー等にしていきます。子供達にもそのことを伝えていきたい。
：菅 裕子 57歳

●物を大切に

姑は明治生まれで若くして未亡人になり、四人の子供を一人前に育てた人です。それは物を大切に上手に利用しておりました。それを見て私も少しは見習いたいと努力いたしました。なかなか足元にも及びませんでした。おかげ様で今日も何とか

元気で笑顔を絶やすことなく三世代で暮らしております。
：73歳

●「成功は継続なり」

小さなこと(良いと思われれること)の積み重ねが、大きな輪となり成功へと結びつくと思います。環境問題も小さなこと(プラスチックの再生、発泡スチロールなどの改善利用)を重ねていく、継続していくこと。いつか花が咲くと思います。

●家訓「無駄をなくす、思いやりをもつ」
：金谷 洋子

●好きな言葉「心こそ大切なり」

心の持ち方で、すべて良い方向に変えていける、楽観主義の生き方をしていきたい。
：日々健康無事故で

●「九思一言」九つ思って一言発する、言葉は慎重に人を傷つけない一日を
・日々夫に感謝、出会った人を大切に
：梶山 幾世 55歳

●一日の時間を大切にしております。

子供たちも独立し、二人だけの家庭です。一日自分の時間を自然に作り上げて趣味に使ったりして、生活に取り込んで時間を大切にしております。
：新井 泰子 65歳

原点を見直そう〈食〉

私の幸福感を変えた食と農

農業生産法人 有限会社ブルーベリーフィールズ紀伊国屋
代表取締役 岩田 康子



これからパーティーの仕込みです。すべて有機栽培の野菜です。

人生の転機が私を変えた

岩田康子さんは、京都で生まれ京都で育った生粋の京女。嫁いだ先も京都の名家で、専業主婦の贅沢な暮らしに浸っていた。子どもも2人授かり、幸せを絵に描いたような毎日が続くとき、転機が訪れた。

夫の仕事と自分の生き方にすれ違いが生じた。35才で離婚。子どもの養育、生活費……。まさに子どもを抱えて途方にくれる日々が訪れた。

「生きるためにはどうするか、を考えました。キャリアもない、仕事の経験もない。自活していく事、子育ての事とあせりもありました。人生70年と考えると、35才は人生の折り返し

点。後半の人生に自分の「生き方」と「仕事」を見つかけようと思っただけです。今までは百八十度違う何か……。そんな感じがしていました。

ある日、滋賀県大津市の伊香立の土地を見るために車を走らせた。10月下旬実りの季節、ヘアピンカーブを何度も曲がり、細い道を揺られる様についた。振り返ればそこには、180度のパノラマで目の前に広がる琵琶湖、比叡の柔らかな山並み、上品なたずまいの町が見える。「スイスのレマン湖に似ているかの様に思えました」。そして「この景色の中で生きて行く」と心に決める。

決めた方がいいが、そこは農地、農業者でないとな農地を買う事も出来ない

慣れない農作業との闘い 農薬を使わないこだわり

のだ。現実との戦いの日々が待ち構えていた。農業者として何を作るか、生産計画、農地取得、農業経験などの判定をうけることが必要だった。

彼女は料理教室でケーキを作っていた手に、農具を持ち土を掘った。夢中でやるうちに土、それは地球に触れる事に気付き始めた。「何かわかんないけど、凄いいことだ、と感動しました。私のやりたい事だったんだ」。作付けはブルーベリーに決めた。今から20年前ブルーベリーは大変珍しく、輸入品の缶詰が高級販売店で手に入る程度だった。

「何を植えるか考えていなかったんですが、料理教室の先生が、『生のブルーベリーがあればこのケーキはおいしいんだよ』と言っていた言葉を思い出して、本屋に行くと冊だけあったんです。東京農大の石川先生が執筆された「ブルーベリーの育て方」の本が」。ブルーベリーは一度植えれば大きくなり実をつけ、10年で成木になる。(実勢価格と収穫量は計画通りではなかったが)。



コクがあっておいしい、人気のブルーベリーレアチーズケーキ



テイクアウト商品も充実しています

ここから自分との闘いだ。とにかく草が生える。県の普及センターの人に「除草剤を撒いたら」と指導を受ける。何となく除草剤は撒きたくなかった。

「この土地は私のものではなく、地球からの預かり物だと思っています。土はあらゆるものを再生してくれま。人間も土や自然にアースされて元気になる。だから薬を地球にまきたくない。有機栽培に踏み切りました。まだ有機という言葉も知らない時から、その方向性を目指していました」。

手間をかけた食材を おいしく安く

成安造形大学「結紀伊国屋」

それから20年、成安造形大学カフテリア運営のコンペテンションが堅田商工会から申し入れられた。大学のスローフード嗜好に共感し参加した。「学生さんにちゃんとした食材で調理した料理を食べて欲しかった。近年、女性の子宮内腺症、男性に精子が不足している傾向やすぐにキレる精神的に虚弱な体質の原因の二つは、食材にあるのではないかと思っっています。除草剤や薬品の影響があるので



木の存在を感じさせる店内。テーブルイス、照明も学生の手作り



苦勞した屋根も立派です

現在は天津伊香立に「ブルーベリーフイ」でファンは多い。

ブルーベリーのレアチーゼケーキセット(500円) 自家製ブルーベリーを使ったケーキと有機栽培のコーヒー豆を使用。こだわりの食材を低価格で提供している。学生から主婦までファンは多い。

「幸せは吹く風が涼しいと感じることなんや。奥さん立つと風は涼しいで」

この言葉は伊香立の夏、草引きの作業をしてくれたおばあさんの言葉。当時彼女は「暑い中こんなに仕事をしてくれるおばあちゃんに、いつかセーターの一枚でも買ってあげたい」と考えていたそう。ところが、おばあさんは粗末な着物で「所懸命作業をする。そして「奥さん、立つと風が涼しいで」と声をかける。

彼女はなぜ?と思いがちながら自分も作業をした。炎天下での作業は暑く



ストローペイルのトイレ

このカフェテリアは成安造形大学で教育の一環として学生たちが主体となつて建設した。間伐材、稲藁、土など地元・滋賀県産の循環型素材を使い、セルフビルド(自力建設)方式で2004年9月にオープンした。成安造形学生の手作り建設、エコでアートなカフェテリア「結紀伊国屋」の誕生だ。

彼女の想いはメニューにも現れている。棚田ランチ(650円) 黒米、玄米、白米、赤米をブレンドしたご飯と季節のおかず。天然酵母サンドスペイン風オムレツ(210円)。

「幸いなことに東京で暮らしていた息子(29歳)が安曇川町の泰山寺の山の中に1町歩の土地を借りました。ブルーベリー1000本を植栽し育てたいと言います」。

親子二代で農に挑戦

「ナチュラルファーム紀伊国屋」の2店舗を経営。有機栽培のブルーベリーを中心とした料理やケーキ、ジャム、テークアウト食材を販売している。

今後の展開を聞いてみた。

彼はお客様が炎天下で、ブルーベリーを摘んでいかれる姿に感動したのだとか。摘み終えたお客様が「こんなに気持ちのいい汗をかかせてもらいました」と笑顔で語られる姿を見て「お母さんは人に感動を作ってきたんやね」と話したそう。

泰山寺がブルーベリーやラベンダーで彩られる日は近い。

「幸せは吹く風が涼しいと感じることなんや。奥さん立つと風は涼しいで」

若田康子



「人の幸せとは、きれいな服を持つ事でも、高価な品物を持つ事でもなく、こんな幸せの感じ方があるんだ。人の価値観は学問の高さやお金の多さや地位の高さで決まるものではない。通りすぎる風に幸せを感じることは、それを感じられる感性の豊かさ、そんな豊かさを自然の中から一つ一つ拾い集めながら生きてゆければ...」。

彼女の人生観を変える一言は宝物になった。

●いわた やすこ 1948年、京都市に生まれる。35歳、離婚を機に琵琶湖を見下ろす山の中腹でブルーベリー栽培を始める。2年後より自宅の2階にて日ひと組のフランス料理を始め、同時にハーブ栽培も手がける。火災に遭ったことを契機に、1995年新たにハーブガーデンを造園、席数40のレストランを新築。日本ブルーベリー協会副会長。

●結紀伊国屋II所在地/滋賀県大津市仰木の里東4-3-1 成安造形大学内

●取材II編集

●写真II辻村写真事務所

環境破壊は未来世代への不当行為

——世代間倫理 ①——

本田先生の環境倫理学講座 Part.5

本田 裕志

■未来世代への不当行為

私たちは現在、種々の活動を通じて、一年間に〇〇を炭素換算値にして一人当りでは平均約一トン、地球全体では六十億トン以上も排出しています。その結果、大気中の〇〇の濃度は、二百年前に比べて三十パーセント以上も増え、なお増加を続けています。その影響は、今はまだ深刻というほどではありませんが、このままのペースで排出が続けば、数十年後、百年後の人類は、海面の上昇その他種々の災害や、それによって起こる農業被害などの重大な脅威にさらされるでしょう。

日本などいくつかの国は、この〇〇を排出しないエネルギー源の開発という名のもとに、原子力の利用を推進しています。しかし原子力の利用は、必ず「照射済み核燃料」という強い放射性廃棄物の排出を伴います。そしてこの廃棄物は、放射能が半分になるだけでも何万年もかかるような物質を含んでいるうえ、人工的に無害化する技術もなく、核燃料としての再利用も（試験段階にはありますが）実用化の目途が立っていない、という代物なのです。ですから、私たちが原子力エネルギーを用い続けられれば、この非常に危険な、管理を誤れば多くの人や生物の生命を脅かしかねない廃棄物が、どんどん蓄積されて、未来へと積み残されてゆくこととなります。

さらに私たちは、乱開発や乱獲によって、さまざまな資源や生物種を、涸渇または絶滅させてしまったり、その危険にさらしたりしています。言うまでもなく、これらはいったん涸渇したり絶滅したりすれば、二度と蘇ることはありません。いわば私たちは、自分が授かった自然という財産を片っ端から食い潰し、その目録をひどく貧しくして未来の世代に譲り渡そうとしているのです。

■世代間倫理の考え方

右に挙げたいくつかの代表的な環境問題の事例は、次のことを示しています。それはすなわち、私たちは豊かで便利な生活を送るために、資源やエネルギーを大量に使用したり、多くの廃棄物・汚染物を発生させたりして環境にダメージを与え、こうして自分たちはまだ受けられない済

む被害に未来の人々を遭わせ、彼らに解決の見通しのない難問を先送りし、また取り返しのつかない損失をこうむらせている、ということです。言うまでもなく、このようにある人々が一方的に得をし、そのツケだけが他の人々に回されるといような不公正な関係は、同時に共存する人間同士の間では道義上許されません。それならば、未来の人々も同じ人間である以上、このような関係は現世代と未来世代の間でも許されなければならずであり、したがって、環境破壊は現世代の未来世代に対する不当な仕打ちであって、環境保護と環境問題解決は、私たちが未来の人々に対して負っている道徳的義務であると考える必要があります。環境倫理の主要な三つの観点のうちの一つである世代間倫理とは、このような考え方をさしています。

■世代間倫理に対する反対論

しかしながら、未来の世代の人々はまだ存在していないし、必ず存在することになるかどうかは確実でないし、存在することになるとしても、どういふ顔ぶれになるかは全く不確定です。そういう人々に対する私たちの行為の当否や義務を考えることなど、それ自体ナンセンスではないでしょうか。また将来、今はまだ実現不可能な環境浄化のテクノロジー——大気中の〇〇を除去する装置や、放射能を消す技術など——が開発されて問題を一举に解決するかもしれないのに、今から遠い先の環境を心配して対策を立てても、無意味ではないでしょうか。

■正しいのはどちらの考え方か

世代間倫理の考え方と、それに対する右のような反対論とは、どちらにより妥当性があるのか、それをここで厳密に論じようとすると、大変難しい議論になってしまいます。そこで今はただ、参考のために次のようなたとえ話を挙げるにとどめ、判定は読者の皆さんに委ねることにしましょう。

(1) 飲むとしても気分がよくなり、飲んだ本人にも、その子どもや孫にも全く無害だけれども、常用しすぎると五〜六代後の子孫に、非常に高

むだいずむ

© しみず やすお 8



*1コマ目にもどる→

い確率で、不治の重い先天性の病気を引き起こすことが知られている薬があると思います。Aさんは、「生れてくるかどうかもわからない五〜六代先の子孫のことなど、心配してもしょうがない。その頃には治療法が開発されているかもしれないか。それより、これを飲んだときのいい気分ときたら、とてもやめられない」と言つて、独身時代からこの薬をずっと飲み続けました。Aさんのしたことは、道徳的に正当でしょうか。

(2)ある国の首都の地中深くに、巨大な爆弾が埋まつていて、二百年以内に爆発する可能性はないけれども、その先はいつ爆発するかかわからず、爆発すれば首都は壊滅、全国にも多数の死傷者が出ることは確実だとします。そしてこの爆弾を二百年以内に安全に撤去・処理するには、今すぐ作業を始める必要があります。この費用を国家予算に組み込むかどうか、国会で問題になつたとき、B党は「誰一人この作業によつて恩恵を受けない現代の国民が、そのための莫大な費用を負担させられるのはおかしい。それより、景気対策や公共事業・福祉など、現在の国民に役立つ政

本田 裕志

● ほんだ ひろし 龍谷大学文学部助教授（専攻 哲学・倫理学）

策に予算を充てるべきだ」と主張し、費用の支出に反対しました。あなたは、B党のこの主張を支持しますか。

右の二つのたとえ話に関して、「Aさんのしたことは正しくない」「B党の主張は支持できない」と考えた方は、世代間倫理の妥当性を認めたこととなります。

三河のエンジン

今関 信子



イラスト：佐々木洋一

十一月二日、私は、愛知県額田町に行った。加藤源重さんに会うためだ。彼は、「三河のエンジン」と呼ばれている。新幹線、名鉄電車、タクシーと乗り継いで訪ねたところは、静かな田舎町だった。細身で小柄なその人は、人なつこい笑顔で私たちを迎え、戸を閉めておかないと猿が入ってくるという事務所に招き入れて、話をしてくれた。

話は、五十八才の春から始まった。その日、源重さんは、いつものように繊維会社に向かった。そこで機械の点検、修理を行うのが源重さんの仕事である。点検の結果は、異常なし。操業が開始された。一時間ほどたったとき、紡織機が動かなくなったとの報告が届いた。綿を巻き込むローラーが止まっていた。調べてみたが、別に異常はない。もう少し奥に綿をかませしてみようとした瞬間、手がローラーに巻き込まれた。

無我夢中で引っぱり出したら、指がなかった。救急車で運ばれた病院で、手首から切除すると言われた。それに必死に抵抗して、このひらの半分と親指の付け根から一センチを残してもらえることになった。医学の知識がなくなかった。ただ、あるものを捨てる事に納得できなかった。

右手が使えなくなった源重さんは、会社を辞める。もの作りの得意な技術屋だったから、いろいろなアイディアが浮かんで、残った部分を生かせる「自助具」を考案した。作ってくれる人さえ見つければうまくいく。源重さんに希望が出た。ところが、どの義肢メーカーにも、「無理です。」と断られた。「指がない手でもものを持つなんて、理屈に合わない。」と相手にしてくれない。源重さんは、自分で作ることにした。とはいっても、両手が使えないので、頭、肩、股、膝、肘、とにかく使えるところは皆使って、作業した。苦勞と努力の末、とうとう、万能ホルダーと命名する自助具ができた。これに道具を固定すれば、鋸が、ハンマーが、クワや鎌も、包丁も、使いこなせた。傷だらけの手で、あふれる涙を拭いたという。

指は生えてこないが、指の働きを補う道具は作れる。源重さんは工夫した。箸で、豆腐を崩さすつかむことができたときは、うれしかったそうだ。源重さんは、この喜びを、不自由を感じている人に分けてあげたいと、願うようになった。そんな源重さんをテレビが映し出した。各地から、自分の可能性に期待して、多くの人を訪れてきた。

ちょっと一服のコーナー
M・O・Hの窓



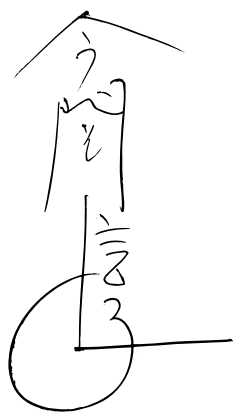
「野洲川の川漁師」

春が近く感じられる3月、野洲川河口を通る舟が見えた。枯れたヨシの壁に沿って舟が進む。遠い日、夏の野洲川で干上がった河原に残る水たまりで魚を捕った。冬の日、魚たちはどうしているのか、どうしても気になつて、捜しに出かけた。そして見つけた、魚たちは、川の淵に集まってじっとしているのを。夏にはすばいっこく動き回っていたのがウソのようだった。

〈写真・文／辻村耕司〉

大手自動車部品メーカー「デンソー」の技術センターの人が、「加藤さんは、我々に挑戦しているようですね」と言ったそうだ。トヨタは、ハイテクを駆使して、大量生産する。源重さんは、ロウテクだ。いろいろな人の不自由を、自由にするための道員を、一つ一つ作り出す。源重さんは、今、子どもたちに話すために学校に出向く。そして、話す。「才能がなくても、学歴がなくても、意欲と熱意があれば、なんでも可能になる。」と。

現在、源重さんは七十才。彼の毎日は忙しい。頭も身体も、働き続けている。自分を必要とする人のために。自分の人生のさらなるチャレンジのために。



いませきのぶこ ● 1942年、東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。

主な著書／「小犬の裁判はじめます」1987重心社。青少年読書感想文コンクール課題図書
「さよならの日のねずみ花火」1995国土社 青少年読書感想文コンクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財
「地雷の村で『寺子屋』へい」2003 P H P 研究所
など多数

中国・宋の学者、朱子が編纂した教科書

「小学」を学ぼう

その4

井上 昌幸

中国の宋の時代に朱子（朱熹）（1130～1200年）と云う人物が中国古典である「大学」も良いテキストであるが、もっと幼時から基本を学ばせる必要があると思つて、「小学」と云う本を編纂しました。

「小学」は人間生活の根本法則であります。だから昔から幼児を教えるには「小学」から学ばせることが大切です。何ごとも、学ぶためには基礎知識がなければなりません。基礎知識がなくては学問は身につけません。

その基本となるのが灑掃・應對・進退です。灑掃というのは板の間や床を四つんばいになって雑巾がけをすることです。今は雑巾がけをすることがなくなつたので、整理・整頓・清掃することです。

約九百年前に書かれた「小学」の中で、人間としての生き方について、今でも参考になることを述べていきます。

「無欲の生活」

どうも今の人間は目の前の利益ばかり執着して、精神生活を大切にすることを知りません。そのために世の中がますます複雑になり、苦しくなつていきます。そうしてみんな悩んでいるのが現実です。

昔、三国志で有名な諸葛孔明は劉備玄德の招請に応じて、天下三分の計を立てて、身は宰相の地位になり、何でもほしいものを手に入れられる立場にありましたが、劉備玄德の子である皇帝の劉禪に「私が死んだ時

に家を調べたら、倉庫にどっさり食料がまつていたり、お金もたくさんあつたというようなことをして、陛下に背くようなことは致しません。もしそういうことがあるとしたら、これは地位・権力を利用して私を肥らせたことになりましょう。」と云いました。死後は果たしてその言葉の通りであつたと云うことです。

「学問・芸術の目的」

今のいわゆる学者・評論家といった人たちは、思想表現の技術である文学や芸術を学ぶのに、みなそれを名声や利益を求めため、また出世の目的のためにやっています。

そういう自分自身をよく学び修養すれば、どうして昔の人に及ぶことができないということがあるだろうか。ところが親達はそういう功利的手段に過ぎない知識・技術を身につけさせて、やれうまくなれと命令します。

友達は名声や利益を求めて派閥をつくつて仲間に入れようとしま。いわゆるコネをつくるというようなことをやっています。

そういうことばかりやつていて一向に反省しなければ、心がはじめからずさんで治まらないので、やつていることがみな昔の人に及びません。…結局、人間を良心に還らせるといふことよりほかにはないのです。この内容は約九百年前に書かれたものですが、昔から変わらない鉄則であると思われています。

「開物成務」

程明道先生が云われた、道が明らかにならないのは、つまり根本に対する枝葉末節が害するからです。本筋から離れて行かうからこれが害となるのです。植物でいうならば、つまらない枝葉を刈らなければなりません。つまり剪定ということをしなければ、いい木にならないのです。人間でも青少年時代に欲望のままに勝手放題をさせておいたら、すぐ成長が止まつてしまつて、いろいろな虫がくつついて駄目になります。同じことです。…頭脳明晰な人も自分の知識にしばられて、何のなすすもなくないたずらに時を過こして自ら覚ろうとしない。

これはみな正しい路がいばらで荒み阻まれ、神聖な門がふさがつてしまつているからで、これを開いた後に、何が本當の智であり、道であるかということ、それを明らかにし、その後、本當に人間を向上の道に進めてゆくことができるのです。

無学・無思想の人間のほうが、人間の本来の精神を荒らさず持つていくから救われると云えるのです。

「人の上に立つ者の心得」では、「礼記」の中に次のように述べています。

●尊敬の心を持続せよ。おごそかに思い、真剣に考える。
●人の上に立つ者は、おごり高ぶつて人をあなどるような心を増長させてはならない。欲望をほしいままに遂げてはならない。

●賢者というのは、親近しても敬の心を失わず、畏敬しても愛情を忘れず、愛する者にも悪いところがあれば、それを認め、憎む者にも善い点を認める。

●財貨を蓄積してもよく人に分け与え、気楽な境遇に安んじていても、いつでも変化に即応できなければならぬ。

●危難に臨んでは、むやみに逃避してはならない。

●争いごとにも強引に勝つことはかり求めてはならない。

●ものを分配するにあつては、自分だけ多く取つてはならない。

●疑わしいことは安易に断定してはならない。

●人と事を論ずる時は、率直に意見を述べるのはいいが、強いて自説にとらわれてはならない。

人間、どんなにわずらわしかろうが、困難であろうが、原理、原則というものは貴重であります。

「九思」では、君子には九つの思いがあると述べています。

●視る時は明らかに視たいと思う。
●聴く時ははつきり聴きたいと思う。
●顔色はおだやかでありたいと思う。
●姿勢は恭しくありたいと思う。
●言葉は良心に恥じぬように思う。
●行動は慎重でありたいと思う。
●疑わしいことはしかるべき人に問うことを思う。
●一時の怒りには難を思う。
●利得を前にした時は道義、つまりこれがよろしいかどうかを考える。

「恭敬の心」

程伊川先生が、近頃は人の心が非常ににうすつらで、ただ愉快に狎れ合ひさえすれば意気投合したと思ひ、角がなく肌触りがよければ、もうお互いに欲び愛していると思つている。しかし、こんな友情がどうして永続きしようか、と云われた。もし久しく交わりなければ、相手を敬う心がなければなりません。上下関係の交わりも友人同士の交わりも、みな敬の心を主とすべきであります。

「孝は妻子に衰つ」

出世するにしたがつて役人は怠け

てきます。病氣は少し治つてきた頃にかえつて気がゆるみ、養生をして悪くなります。禍いは怠けるところから生じてくるのです。親孝行は女房子供を持つ頃から衰えてきます。心を女房子供に奪われて、親を忘れてしまふからです。九百年前と人情は変わつていないようであります。

「君子の交わり」

曾子が云つた。上に立つ者は教養を身につけて友を集めます。利益が目的ではないのです。友に対しては限らない進歩向上を助けることが大切です。

「朋友と兄弟」

孔子が云われた。本当の友達は一切磋琢磨してお互いに磨き合うことが本来の姿であり、親子兄弟はお互いに睦み合うのが本来の姿であります。

「朋友の道」

父子の間で善を責め合うことはいけませんが、信頼できる友達の間では何を言つてもかまいません。大いに議論し合つてお互いに磨く。それで怒るような人間は、友とするに足りないのであります。

子貢が孔子に「本当の友としての道は何でしょうか」と尋ねた。すると

「久敬」

孔子は、「忠告してこれを善い方に導く。しかし聞き容れない時には、いったん止めるがよい。無理強いすると反発するばかりで、かえつて自分を辱しめることになる。」と云われた。

晏平仲は人との付き合いが上手でありました。久しく交わつていると人々は晏平仲を尊敬するようになりました。たいていは人と交わつて長い時間が経過すると、人はこれを侮るものです。年が経つにつれて敬意を払うようになってこそ本物であります。

(安岡正篤氏著「人間としての成長」PHP文庫を参照)

井上昌幸

いのうえ まさゆき ●1940年1月1日生まれ。1961年大阪府立大学工業短期大学部卒業。1961年日本電気硝子(株)入社。2000年日本電気硝子株 定年退職。現在、滋賀県異業種交流連合会副会長、STEER(滋賀県シニアテクニカルエンジニアリングパートナーズ企業組合)専務理事、滋賀県技術アドバイザー、大津木鶏クラブ代表世話人、近江素交会代表世話人
資格/ISO14000&9000審査員補

本&掲載記事の紹介

最近入手した、気になる本と掲載記事をご紹介します。

本

「まんがで学ぶエコロジー」

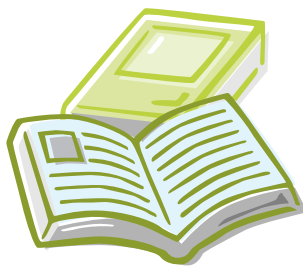


● 発行人 内藤正明(文)、高月紘(絵)、鈴木靖文(執筆協力)

● 発行所 昭和堂

● 価格/2000円+税

● 内容/先送り、ツケ回しはもう



限界!暮らし、社会・経済、技術のあり方を根っこから見直す視点を、へひと「ママんが」とわかやすい文章で伝える。

掲載記事

「読売新聞」

◇それいけ近江商人◇のページに紹介していただきました。



「長浜みくろ」

大塚産業対談シリーズで紹介していただきました。



「みんなの滋賀新聞創刊準備PR版」

中小企業家同友会での講演が紹介されました。



循環型社会を支える基本理念

循環型社会入門②

森 建司



イラスト：佐々木洋一

この先、循環型社会形成が現実のものとして動き出したとしても、さまざまな立場で社会を形成している一人として、あるいは生活者の一人として、われわれ自身が「循環型社会」を目指して、しっかりと「意識の改革」を行わないと決して実現はしない。そのためには「循環型社会」に対する目的なり方向なりが明確に示されている必要がある。

では循環型社会とは何なのか、どんな条件を具備した社会をいうのだろうか。

今後、各方面から盛んな説が成されることになるだろうが、ここでは循環型社会とはどんな社会なのかということ、私なりの仮説で書いてみたい（ご批判を賜れば幸甚です）。

1 循環・共生・抑制

「生は死を目指す」という言葉をご存知だろうか。すべての存在は自己矛盾を持っている、その端的な一例である。一人の一生はわずかに百年足らず。人はその間を精一杯生きようとする。けれども生きていくことは死を目指して一直線に突き進むことである。その短い一生に自分の目標や夢をなんとか実現したいと目指す。企業で言えば自分が関わっている間、自分が責任と権限を持っている間に利益を上げよう、そして評価を得ようとすると同じである。

しかし個々のものを除いて全体ではどうだろうか。個々の命は限界があっても全体の人間の命は脈々と生き続けている。企業群は特定の経営者が死んだ後でも（つぶれたり生まれたりしながら）立派に存在し続けている。つまり循環しているのである。

言葉を変えて言うと循環とは古いものが年老いて死んでいくことによつて成り立つ。若い命が成長するのも、やがて同じことを繰り返していくためである。

経済社会では欲望の抑制が効かず、短い間に多くのものを求めすぎた。未来永劫にこの世が循環しつつ存在しつづけることを忘れて（知らぬ顔をして）資源を消費しつづき、環境を破壊し、生態系をつぶしているのである。

われわれは決してあせってはいけない。今すでに経済は過剰な状態に

講演日記

皆様のご支援でたくさんの講演依頼を頂きました。
ダイジェスト版で11月～12月の講演をお知らせします。

- 日 時:2004年11月4日(木)
- 主催者:長浜ワイズメンズクラブ
- テーマ:「循環型社会主義入門～MOHの会運動を通じて～」
- 場 所:長浜北びわこホテルグラツィエ
- 参加者:30名
- 演 者:森 建司
- 内 容:1、自由主義経済がもたらしたもの 2、大企業と中小零細とは理念が違う 3、抑制なき自由主義は危険 4、MOH運動の趣旨



- 日 時:2004年11月19日(金)
- 主催者:滋賀グリーン購入ネットワーク「5周年記念フォーラム」
- テーマ:グリーン購入から見えてくる未来～MOHの会の運動を通じて
- 場 所:ピアンカ
- 参加者:120名
- 演 者:森建司
- 内 容:1、生活者を包含した「環境倫理とグリーン購入意識」 2、次代は環境倫理にパラダイムすべき 3、生活者のパラダイムシフトに対応する企業活動

- 日 時:2004年11月10日(水)
- 主催者:彦根異業種交流研究会
- テーマ:「新事業創出に向けて」
- 場 所:新江州eプラザ見学
- 参加者:22名
- 演 者:森 建司
- 内 容:1、わが社の概要 2、次代をどう読むか 3、中小企業の時代

- 日 時:2004年12月2日(木)
- 主催者:湖南省経済活性化会議
- テーマ:「新事業創出に向けて」
- 場 所:新江州eプラザ
- 参加者:18名
- 演 者:森 建司
- 内 容:1、わが社の概要 2、時代をどう読むか 3、中小企業の時代

- 日 時:2004年11月11日(木)
- 主催者:社団法人大阪府工業協会
- テーマ:「環境見学会」新事業創出に向けて
- 場 所:新江州eプラザ見学
- 参加者:9名
- 演 者:森 建司
- 内 容:1、わが社の概要 2、次代をどう読むか 3、中小企業の時代
- 感 想:大変良かった2名・良かった6名・普通1名

- 日 時:2004年12月3日(金)
- 主催者:近江八幡工業クラブ
- テーマ:「新事業創出に向けて」
- 場 所:新江州eプラザ
- 参加者:15名
- 演 者:森 建司
- 内 容:1、わが社の概要 2、時代をどう読むか 3、中小企業の時代

- 日 時:2004年11月17日(水)
- 主催者:社団法人福井県経済調査協会
- テーマ:「環境倫理と企業経営～循環(もったいない)共生(おかげさま)抑制(ほどほどに)～」
- 場 所:福井パレスホテル
- 参加者:70名(福井県内企業の経営者・経営幹部)
- 演 者:森 建司
- 内 容:1、経済至上主義社会は行き詰ってきた 2、究極の企業経営のもたらしたもの 3、来るべき社会の理想像 4、循環型社会システム研究所の発足 5、環境倫理で学ぶ「循環型社会主義思想」 6、MOHの会

- 日 時:2004年12月14日(火)
- 主催者:京都キャリア交流プラザ
- テーマ:「自立する中小企業の仕事探し」
- 場 所:京都キャリアサポートセンター
- 参加者:20名
- 演 者:森 建司
- 内 容:1、景気は回復するのか 2、これからの社会はどうなるのか 3、新しい価値観による社会の誕生 4、これからの企業の生きる道 5、わが社の戦略 6、循環型社会システム研究所 7、個人でできる新事業への挑戦

ある。にもかかわらず「当期の利益」の拡大を目指し、さらなる消費や廃棄の拡大に走ってはいけない。循環しつつ、われわれの子孫や、今生きて生けるものの未来を奪ってはいけない。このきわめて簡単でわかりやすい論理を経済人も、政治家も、教育者も、生活者もなぜ理解できないのだろうか。

循環型社会の定義の「は」循環の意味を理解することである。そしてそのためになすべきこととして「共生・抑制」がある。次号でこの続きを書きたい。

もり けんじ ●1936年、滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株)代表取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀県教育委員会委員など。滋賀県教育委員会委員など。遊タイム出版

森 建司

☆あなたも「家訓10か条」を作ってみませんか？

家族で守る事、忘れない事、挑戦する事、心がける事などなど一度、考えてみてください。父と母とお子さんとおじいさんとおばあさんと忘れかけてる何かが見えてくるかもしれません。新しい時代を素敵な環境にするため、トライしてみてください。家族でも、グループでも構いません。一度、事務局まで、ご連絡ください。ご相談いたしましょう。

☆「環境倫理経営理念」にチャレンジしてみませんか？

世代交代&時代の変革についていけず、経営方針にお悩みのかた、また、未来型企業にむけて変革をお考えの方、「環境倫理経営理念」にチャレンジしてみたいかたは、いかがですか？こちらまでご連絡下さい。担当者が伺います。実験的な試みに挑戦してください。

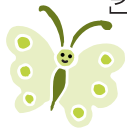
《2005年次号予告》

2005年4月末発行予定

特集：“共生を考える”
 循環共生社会システム研究所 代表 内藤 正明氏
 連載：作家 今関 信子さん
 連載：龍谷大学 助教授 本田 裕志氏
 連載：森 建司氏
 連載：「小学の教え」井上 昌幸氏
 挿絵：佐々木 洋一氏
 漫画：しみず やすお氏
 写真：辻村 耕司氏

「編集後記」

なんとか通巻6号目を発行することができました。これも、読者や関係各位、執筆いただいた皆様のおかげです。ありがとうございます。2年目に突入しますが、地道に続けてまいります。ご支援くださいませ。今年からM・O・H講座を開催します。詳細は決まり次第お知らせします。お楽しみに……「夢」



M・O・Hの会紹介

【M・O・H通信】

M=もったいない(循環) O=おかげさま(共生) H=ほどほどに(抑制)

の頭文字をとって「もーつうしん」と読みます。

初刊は2004年4月。今号で通巻6号を数えます。発行は偶数月の年6回(隔月刊)で発行部数は3000部、会員や各種団体に送付しています。

毎回角度を変えた視点で特集を組み、研究者、実践者、作家、主婦、学生に取材をしています。申込は上記をご覧ください。

【M・O・Hの会】

循環型社会構築に向けた環境倫理の勉強会をしています。

現在、会員はM・O・H通信の購読者が大半を占めますが、講演依頼があれば伺います。

講師は、当会の代表・森建司、龍谷大学哲学科助教授・本田裕志、童話作家・今関信子、が講演をいたします。日時・場所・目的・人数をお知らせいただければOKです。

M・O・H講座も予定しております。ぜひご参加ください。

【問合せ】

M・O・Hの会事務局



《M・O・Hの会》入会受付中!

あなたも「M・O・Hの会」に入会なさいませんか。年会費3,000円で、会員になれます。会員特典として、M・O・H通信、会員交流会、講演会のご案内をいたします。ご近所お誘い合わせの上、ご入会ください。活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

あなたのお名前、年齢、郵便番号、住所、電話番号、fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、あなたの心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

キリトリ線

《M・O・Hの会》入会申込書

フリガナ		年齢	
お名前			
住所	〒		
電話		FAX	
メールアドレス			
あなたの心に残った一言を書いてください。			

M・O・H通信 Vol5(通巻6号)

2005年2月末日発行

●編集・発行/循環型社会システム研究所 M・O・Hの会

M・O・Hの会事務局

循環型社会システム研究所(新江州(株)内)

代表 森建司
 編集長・取材 辻村 琴美
 監修 稲垣 重雄
 デザイン 伊達デザイン室
 写真 辻村写真事務所
 印刷 (株)ワキプリントピア

〒526-0111 滋賀県東浅井郡びわ町川道759-3
 TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681
 email: tsujimura@shingoshu.co.jp

【入会費振込先】

M・O・Hの会 代表 森建司
 ●滋賀銀行 長浜支店 817 普通 136987
 ●長浜信用金庫 本店 002 普通 0577468
 ●びわこ銀行 長浜支店 421 普通 721691